

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：地域政党きずな庄原議員団

報告者： 五島 誠

実施場所：(株) アイシン本社・愛知県豊明市	実施日：2月15日 12:50~15:50
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） ・健康増進のための乗合送迎サービス「チョイソコ」の取り組みについて	
■参考とすべき事項 ・買い物弱者とも呼ばれる交通難民の増加、また運転免許返納の加速化により過疎地のみならず都市部においても新しい交通の仕組みが必要であり、そうした背景からデマンド型交通が全国において広がっている。その中の一つとして株式会社アイシンがエリアスポンサー協賛型のビジネスモデルとして「チョイソコ」を全国71自治体で展開している。 ・主にごみ置き場や公共施設など住宅地に停留所を置き、チョイソコ本部のオペレーターによって予約管理などを行い、地域の交通事業者によって車両運行されている。また、その事業に対し地域の事業者や自治体などがスポンサーとして停留所設置や協賛金を援助している。事業主体は民間企業となるのが特徴。 ・住民、自治体、企業が協力して行っており、地域住民向け説明会なども丁寧に開催しながら、地域の交通会社やアイシン、自治体などの役割分担もカスタマイズしながらそれぞれの地域に合わせた運行形態や運行網を形成している。 ・運行だけにとどまらずイベントの開催なども様々な企業と協働で行っており、ただの生活交通事業ではなく、まちづくりもともに考えていく事業づくりを行っている。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） ・実際に乗車させていただき説明を受けたわけだが、かなり細かな配慮を行いつつ事業をすすめられており、地域の方の信頼度も高いように感じた。 庄原市でも庄原 MaaS 事業として取り組みをすすめられているが、こうしたデマンド交通事業者との協働によって進めていく事も良いのではないかと感じる。すでに全国の事例が多くある中でそこを庄原市版でカスタマイズしていく事や様々な方との協働によってまちづくりにまで発展して検討する取り組みが望ましい。また、コールセンターのオペレーター業務をアイシンに担っていただけることは自治会や自治振興区の事務局、交通事業者もひっ迫している状況において非常に有効である。 ・すでにチョイソコの取り組みをすすめておられる長野県佐久市の取り組みは本市の状況と相似している部分が多くあり特に参考になるのではないかと感じた。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：地域政党きずな庄原議員団

報告者：徳永 泰臣

<p>実施場所：(株) アイシン本社・豊明市役所</p>	<p>実施日：2月15日 12:50～15:50</p>
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○：トヨタグループ会社である株式会社アイシンが事業展開している、健康増進のための乗り合い送迎サービス【チョイソコ】の取り組みについて視察研修を行った。 ○：本市の重要課題となっている地域公共交通問題解決のための手段として、民間事業者と地方自治体などで行われ、既に全国70以上の自治体で導入されているオンデマンド交通のシステム・現状について研修をさせていただいた。 	
<p>■参考とすべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ○：チョイソコのようなデマンド型交通が広まっている背景として、買い物弱者とも呼ばれる交通難民の増加などにより、新しい交通の仕組みが必要となってきている。 ○：チョイソコとは(チョイと ソコまで ごいっしょに!)といった意味で、多様な人が乗り合わせる移動により、外出を楽しみ、健康増進につながる… そのような世の中を実現して行きたいとおもいで開発された。 ○：チョイソコは地域の交通不便を解消し、移動困難者の外出促進に貢献するデマンド型交通で、単なる運行システムの提供に留まらず、心身の健康増進につながる外出促進のコトづくりを推進。 ○：持続的なモビリティサービスとして、エリアスポンサーによる協賛での採算性向上と、地域活性化を促進。 ○：チョイソコの特徴として、高齢者に最適化された運行システムであり会員登録制で、利用時には事前の電話が必要で高齢者とのコミュニケーションに優れたオペレーションにより、安心運行が実現。 ○：チョイソコは地域のタクシー会社と提携し運行している。エリアスポンサーからの協賛広告料により、運営費用の一部を支えていただくことで、これまでよりも採算性高く運営を維持することが可能。 ○：チョイソコは民間企業が事業主体になるのが特徴です。それにより主体的な企画や技術の投入が可能になる。 ○：自治体と協力して地域住民向け説明会を開催し、周知.理解を高めている。高齢者に寄り添ったコールセンターで、配車のサポートも可能。 ○：運行だけにとどまらず、お出かけしたくなる様々なイベントの仕掛けを自治体やスポンサーと協業で行っている。 	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○岡山県真庭市も昨年10月に中国地方初となる【チョイソコ】を3台導入し供用されている。 ○長野県佐久市も本市と同じような地域であるが、18台を運行され地域交通の核として供用し、市民からも好評ときいている。 ○本市として、現在、地域交通課を中心に令和3年に策定された庄原市地域公共交通計画に基づき、計画的に進められていると思うが、高齢化も着実に進み早急な対応が必要であると考えます。 	

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名：地域政党きずな庄原議員団

報告者： 國利 知史

実施場所：(株) アイシン本社・豊明市役所

実施日：2月15日 12:50～15:50

■目的・課題・問題事項(調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など)

日本は超高齢社会の中で、全国的に高齢者の免許返納後の移動手段の確保が重要な課題となっている。本市は主な移動手段が自動車という現状の中で、特に免許返納後の高齢者の移動手段を確保することが需要である。

株式会社アイシンが展開するデマンド交通「チョイソコ」が全国で広がりを見せており、過疎地域におけるデマンド交通の導入に向けての視察を目的とした。

株式会社アイシン ビジネスプロモーション部 乗合サービス企画室を訪問し、担当者より「チョイソコ」の説明を受け、実際にデマンドバスへの乗車を行った。

■参考とすべき事項

「チョイソコ」は複数の移動希望者を一度の運行便でそれぞれの目的地へ運ぶという形は、他のデマンド交通と変わらないが、運行システムは高齢者利用に最適化されている。

「チョイソコ」を導入している76自治体の中でほとんどが電話予約であり、チョイソコのコールセンターで受け付けている。予約が入ればオペレーターが予約情報をシステムに入力する形となっている。スマートフォンなどが苦手な高齢者には嬉しいサービスであり、高齢者とのコミュニケーションや、遅延や欠便の場合の連絡が付きやすいこともメリットである。

「チョイソコ」の運営で特徴的なのはスポンサー制の導入である。チョイソコは地域のタクシー会社と提携し運行しているが、エリアスポンサー(自治体や事業者)からの協賛・広告料により運営費用の一部を支えることでこれまでよりも採算性が高く運営を維持することが可能となっている。バス停もエリアスポンサーに設置することで、利用者の増加につなげることもつながっている。

また、ウォーキングやハイキング、観察会などのチョイソコを組み込んだイベントをスポンサー企業と共同で企画することで高齢者の移動を活性化させ、スポンサー企業の宣伝にもつなげている。

チョイソコの運行は、決められたスキームの中での運行ではなく、事業主体(主には自治体)やその他の様々な条件によって、地域に合った運行システムを事業主体との協議を元に決められるというメリットがあり、地域特色に応じた運行スキームを作ることが可能。

■提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきか など)

高齢化が著しく、公共交通の便数も少ないなど、移動に不便が生じる本市においては、交通問題を解決する可能性を含んだシステムだと感じた。

スポンサー制度を採用しており、運行業者の負担も少なくなるのと同時に、予約管理がアイシンコールセンターとなるので、運行会社の人的負担軽減にもつながり、人手不足に悩む本市のタクシー業界には合っているシステムだと感じた。

バス停も多く設置することが可能であり、Door to Doorを希望する高齢者にも利用しやすくなると感じた。

長い距離での運行ではなく、各地域単位での運行とし、地域間の移動はJR芸備線や路線バスを組み合わせることによって可能となり、本市が進めるMaas本格運用も可能なシステムであると感じる。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。